

化学物質過敏症 国際市民セミナー 治療・研究の最前線

日時：2009年10月3日(土) 10～17時

講師・スケジュール(同時通訳つき)：

10:10	「化学物質過敏症対策の経過、現状および問題点」 柳沢 幸雄さん (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)
11:10	「日本における化学物質過敏症研究の現況」 石川 哲さん (北里大学名誉教授)
13:10	「化学物質過敏症の治療」 クラウス・デートリッヒ・ルノーさん (ドイツ・医師・環境病研究所)
14:25	「化学物質過敏症の最新研究」 クラウディア・S・ミラーさん (米国・テキサス大学サンアントニオ健康科学センター教授)
15:55	パネルディスカッション
※終了後、懇親会を行います(事前にお申し込みください)	

会場：国際協力機構研究所(JICA研究所)

東京都新宿区市谷本村町10-5(裏面地図参照)

TEL. 03-3269-2911

JR市ヶ谷駅、都営新宿線市ヶ谷駅A1出口、東京メトロ有楽町線・南北線市ヶ谷駅6番出口から、徒歩10分

参加費(資料代含む)：1,000円
(懇親会参加の方は別途3,000円)

主催：国際市民セミナー実行委員会
(事務局：ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議)

定員：200人

お申込み：同時通訳設備の都合上、原則として事前にお申し込みください。裏面の参加申込書にご記入のうえ、ファクスまたは郵送してください。申込書の各項目の内容を電子メールでお伝えいただいても結構です。

この国際市民セミナーは、
地球環境基金の助成を受けて開催されます。



クラウス・デートリッヒ・ルノーさん

1985年からドイツ初の環境医学センター、環境病研究所(IFU)をバード・エムシュタルに設立し、所長に就任。1989年、最新のエコ建築の知見(環境負荷の少ないエコ塗料や家具、電磁波シールドなどについての)を集積し、アレルギーや化学物質過敏症の患者にとって理想的な環境を整えた環境病研究所を建設。いくつかの医学情報誌(例えば日本の臨床環境医学会雑誌など)への執筆、世界各国で100を超える講演活動を行う。環境医学および機能医学(日本でいう機能生理学)に関する年次国際会議を創設、運営にかかわる。慢性病疾患の患者用の解毒プログラム(コンパクト・デトックス・プログラム)、Hepar-T oxの開発。その対象となる慢性病疾患とは、化学物質過敏症や食物アレルギー、アトピー、注意欠陥・多動性障害、自閉症、炎症性腸疾患、慢性消化器疾患がある。2005および2006年、コソボ北部Mitrovica難民キャンプで鉛汚染の人々の治療に携わる。2006年夏、重度の汚染に苦しむ子供たちの最初のグループをキャンプから移転させ、治療に成功する。2006年5月名誉ある環境賞「B.A.U.M環境賞」を授与される。2009年2月、環境医学研究所をヴォルフハーゲン市に移転。2010年、アレルギーや化学物質過敏症を患う人々も安全に過ごせるエコホテルの建設に関心を寄せる人々の協力を得て、古いヴォルフハーゲン城に環境健康センターを設立する予定。



クラウディア・S・ミラーさん

テキサス大学サンアントニオ校健康科学センター教授(労働衛生・環境医学)。MD/MPHプログラム副研究科長、家庭・地域医学副主任を兼任。
著書：ニュージャージー州委託による化学物質感受性に関する報告書(これにより州はWHO世界保健機関よりMacedo賞を受賞)他、執筆多数。
主な経歴：アレルギー・免疫学および内科の学会専門医STEER(南テキサス環境教育研究プログラム)を設立し理事を務める。STEERは環境・公衆保健衛生の実地訓練を提供する唯一の医学部カリキュラムで、特色あるカリキュラムとして国や州から賞を受けている。
連邦政府より委嘱を受けたもの：国立労働安全・健康諮問委員会、湾岸戦争退役軍人部科学者専門委員会、国立毒性学プログラム科学カウンセラー、テキサス州保健部、環境保護局、有毒物質・傷病登録局、カナダ、ドイツ、日本及びスウェーデン政府顧問
NIEHS/NIH(国立環境保健科学研究所)の主催で、化学物質不耐性に関する2つの会議のオガナイザーを歴任。その一つは、2001年東京において開催され、医療機関における環境制御ユニットの必要性和その使用に焦点をあてた国際会議である。

1990年代後半、建物内で発生する化学物質によるシックハウス症候群の多発などにより、多くの人が化学物質過敏症を発症しました。これを受けて建築基準法が改正されるなど、シックハウス予防策は一定程度進みました。今年10月には「電子カルテ用標準病名マスター」に「化学物質過敏症」の病名が掲載されることとなり、この病気が事実上「公認」されました。

その一方で、規制されている物質の種類が限られていることなどのため、化学物質過敏症の発症は依然として続いています。また、化学物質過敏症は、発症から回復まで数年以上を要す

場合も多く発症者の闘病が続いていますが、発症者の支援態勢はいまだ立ち後れています。さらに、化学物質過敏症を心因性とする立場の研究班の成果物が厚労省によって全国配布される等、この病気への対策の終結を図っていると見られる動きも出てきています。

このような中、国内・海外の化学物質過敏症治療・研究の最前線にいらっしゃる医師・研究者を招き、化学物質過敏症の最新の知見や発症者の社会的状況を探る国際市民セミナーを開催することにいたしました。

ぜひご参加ください。

お申込み先・お問い合わせ：

ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議
〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21 戸田ビル 4階

電話 03-5368-2735

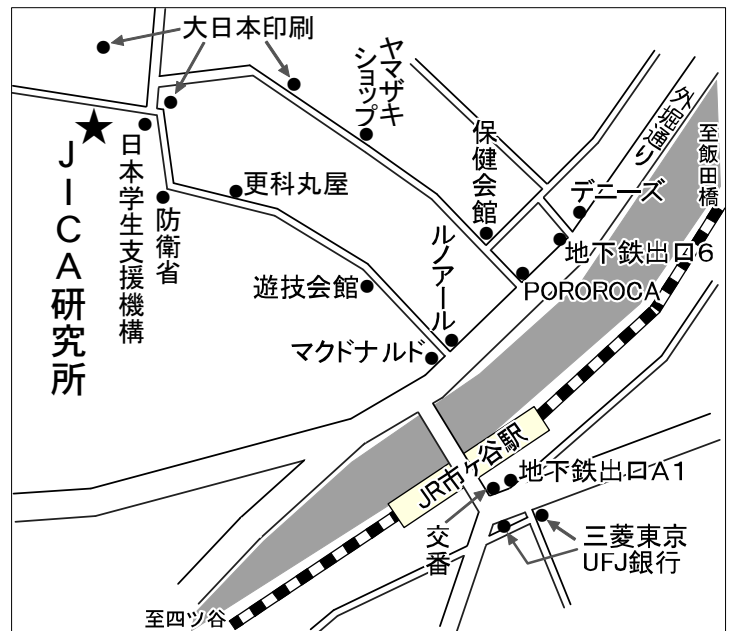
ファクス 03-5368-2736

電子メール kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp

※会場付近に食堂が少ないため、当日は弁当の持ち込みができます（ごみはお持ち帰りください）。

※化学物質過敏症・電磁波過敏症発症者の方々のご参加も予想されるため、参加者は化粧・香水等は控え、クリーニングしたてや防虫剤のにおいがする衣服はご遠慮いただき、喫煙者は当日だけでも禁煙していただきますよう、できるだけご協力ください。会場では携帯電話の電源をお切りください。

会場案内図



化学物質過敏症国際市民セミナー実行委員会宛（ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議行）
ファクス 03-5368-2736

参加申込書

ふりがな	ご所属	
お名前		
ご住所		
ご連絡先（お電話、電子メールなどなるべく容易に連絡がつくもの）	懇親会に（いずれかに○印） 参加 不参加	

お知らせいただいた個人情報は、今回の市民セミナー以外には使用しません。